



～安定したごみ処理の実現と新クリーンセンター整備に向けて～

■佐久市・北佐久郡環境施設組合議会、全員協議会(現場視察)を開催しました

5月30日(水)、佐久市・北佐久郡環境施設組合議会は、全員協議会(現場視察)を開催し、町選出議員の笹沢武、茂木重幸両議員が参加されました。

施設本体建設工事が本格的に始まり2ヶ月を経過したことから、工事の進捗状況等について確認をされました。

工事施工業者から現場事務所の会議室で、写真や動画を交え説明を受けた後、現場での視察となりました。あいにくの雨でしたが、熱心に様々な質問をされ作業方法等の確認をされておりました。



▲ 工事施工業者(荏原・竹花特定建設工事 共同企業体)による説明



▲ 現在の工事現場を確認しながら、説明を受ける様子

■佐久平総合技術高校が建設現場を見学しました

6月8日(金)、佐久平総合技術高校農業科環境共生コース3年生(21名)が、建設現場の見学に訪れました。

今回の見学会は、長野県建設業協会をはじめ、長野県、長野県建設系学科高校が協働で、次世代を担う若手技術者の就労促進に係わる取り組みの一環で、新クリーンセンターの建設現場も見学箇所の一つに組み入れられました。

多くの高校生が、初めて見る大規模な建設現場に目を輝かせ、工事に携わる方々からの工事概要や様々な工法、また安全や周辺環境に配慮した工事内容等の説明に聞き入っていました。



▲ 時折メモを取りながら熱心に説明を聞く様子



▲ 建設地外縁より全体の様子を見学

■工事の進捗状況について

現在現場では杭工事、ごみピットの山留、掘削工事を行っています。

杭工事は鉄筋コンクリート杭を全部で75本施工します。先端に掘削用の歯を取り付けた円筒型のケーシングを回転させ、ケーシング内の土砂や岩石を除去しながら所定の深さまで押し込みます。その後、鉄筋かごを建込み、コンクリートを流し込むことで杭が完成します。

また、ごみピットの山留、掘削工事は地盤改良を含めると一番深いところで18mまで掘り下げます。掘削にあたり、事前に打ち込んだH型の鉄骨の間に木の板を張り、掘削面の崩落を防いでいます。



▲ H30.5.1 撮影:杭工事
ケーシング内の土や岩石を除去しています。



▲ H30.5.29 撮影:ごみピット掘削工事
H型の鉄骨の間に木の板を張っていきます。



▲ H30.6.4 撮影:建設地全景

■今後の工事予定について

平成30年度は、施設本体の基礎工事を中心に、ごみを受け入れる「ごみピット」工事のための掘削や躯体工、また法面の植生工を予定しています。



■工事現場における周辺環境への対策について

工事現場では周辺環境への影響を最小限に抑えるため、様々な対策が取られています。

①仮囲いの設置

工事現場を明確にし、環境に配慮した工事の進捗を図るために建設地の外周部分に仮囲いを設置しています。仮囲いは、2m～5m程の高さとなっています。

仮囲いの設置により、建設機械の稼働や土砂の掘削等の作業に伴い発生する騒音や土ほこりが抑制されます。



▲ H30.4.9 建設現場南側より撮影
建設地外周に設置された仮囲い

②場内散水や路面洗浄の実施

工事現場内で発生する土ほこりの発生や場外への飛散を防ぐために、適宜散水車による散水をしています。



▲ H30.5.25 撮影 出入口の洗浄



▲ H30.5.25 撮影 現場内の散水

③環境に配慮した建設機械等の運転

建設機械、工事車両等から発生する騒音、振動や排気ガスの抑制を図るため、アイドリングストップや空ぶかしの禁止等を徹底し、場内での標語の掲示をはじめ、朝礼ミーティング等において、作業員へ意識啓発を行っています。



▲ H30.4.6 撮影 標語掲示による意識啓発

■平成30年度 環境影響評価事後調査について

○希少猛禽類の定点調査を行っています

建設工事による希少猛禽類(ハチクマ、ハイタカ、ノスリ)の繁殖への影響を観察するため、建設地周辺にて定点観察を行っています。

平成30年5月から平成30年7月までの毎月2日間、午前8時30分から午後4時まで、調査員が三脚や双眼鏡などを用い観察を行っています。

平成30年5月10日から11日にかけて行った定点調査では、希少猛禽類の繁殖への影響は確認されませんでした。



▲ H30.5.11 撮影
建設地付近上空を飛翔するノスリ

○ギンランの生育調査を行いました

今年度の動植物系の調査が始まり、ギンラン(長野県版レッドリスト 準絶滅危惧種)の生育調査を5月24日(木)に行き、白い小さな花を咲かせた5個体が確認できました。

平成27年に建設地近隣で生育が確認されて以来、生育状況を定期的に確認しています。また、平成28年には建設地内で生育する個体が確認できたため、敷地外への移植を行いました。

当日は、ギンランの生育環境を整えるため、生育地周辺の下刈りも併せて行いました。



▲ H30.5.24 撮影 開花したギンラン

編集後記

海を渡り、2,000kmもの長距離を移動する蝶「アサギマダラ」。新クリーンセンター建設地に隣接する面替区では、「アサギマダラの会」がその蝶を呼ぶため様々な活動が行われています。

アサギマダラは「フジバカマ」という植物の蜜を吸いに集まると言われております。同会では面替区内の遊休農地を利用してフジバカマを育てておりますが、4月28日(土)にその移植作業が行われました。

当日は天候に恵まれ、クライנגルテンのガルテナーの皆様も参加され、和気あいあいと作業を行っていました。毎年秋頃には、蝶の観察会と地元農産物の直売などを行う「アサギマルシェ」が面替区で開催されています。植え直したフジバカマにアサギマダラが飛来するのがとても楽しみです。

【発行】 御代田町役場 町民課 環境衛生係
御代田町大字馬瀬口 1794 番地 6 電話：0267-32-3114 (町民課直通)

【組合問合せ先】 佐久市・北佐久郡環境施設組合 事務局
佐久市中込 3056 番地 (佐久市役所内) 電話：0267-62-2916